

自 己 評 価 表

| | | | |
|------|--|------|---|
| 教育方針 | 徳・知・体の調和のとれた健全な心身の発達を目指し、個性豊かな人間の育成を期する。 | 重点目標 | 1 温かい人間性と豊かな社会性を身に付けさせる。 2 高い知性と豊かな創造性を養う。 3 強い意志とたくましい体力を培う。 |
|------|--|------|---|

| 領域 | 評価項目 | 具体的目標 | 評価 | 目標の達成状況 | 次年度の改善方針 |
|---------------|--------------------------------------|--|---|---|--|
| 温かい人間性と豊かな社会性 | 基本的生活習慣の確立 | 規則正しい生活をする事で体調管理に努めさせ、年間通して欠席0日の生徒70%以上を目指します。 A : 70%以上 B : 69~60% C : 59~50% D : 49~40% E : 40%未満 | E | 3年目となった新型コロナウイルス感染症拡大による学校生活への影響により、出席率が大きく減少した。必要最低限度の学びの補償を目指し、リモート授業や再登校後の教科指導や個人面談などを、教職員挙げて行ってきた。その結果、生徒との関わりは深まったように感じる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後も想定される感染拡大に備え、学びの補償や学び直しができる環境整備をさらに進めていく。 ・当たり前の日常が担保されていないことによるストレスは計り知れない。そのことを念頭に置いた、教育相談的アプローチを行っていく。 |
| | 安心・安全な学習環境の確保と心身の健康 | 自他の生命を尊重する態度を身に付けさせるとともに、交通安全意識の高揚を図り、交通事故ゼロを目指します。 | C | SNS等のトラブルや問題行動が数件発生しており、目標を十分達成したとは言えない。交通事故は昨年度の11件に比べて、7件と減少傾向が続いており、良い傾向である。 | <ul style="list-style-type: none"> ・問題行動の未然防止に向けた日頃の啓発活動に努める。 ・2年前より1学期に実施している交通安全教室の効果が出ている。さらに効果的な指導法を考えていく。 |
| | | 「心の悩み」解消をサポートし、充実感の持てる学校を目指します。 | C | 諸検査やアンケート、及びその追跡を行い、悩み解消のサポートに取り組んだ。相談室には放課後担当者が、週1回スクールライフアドバイザーが在室するようにした。 | <ul style="list-style-type: none"> ・諸検査や学校生活アンケートを活用し、悩みの早期発見に努める。 ・放課後等の相談室の利用が気軽にできるように環境を整えていく。 |
| | | 保護者・地域に支えられた学校として、PTA総会出席率40%、保護者懇談会出席率100%を目指します。 PTA総会 A : 40%以上 B : 39~30% C : 29~20% D : 19~10% E : 10%未満 保護者懇談会 A : 100% B : 99~80% C : 79~60% D : 59~40% E : 40%未満 | C | 2年ぶりにPTA総会は開催されたが、出席率は例年に比べやや低く、20%程度であった。同日予定していた学校行事(陸上競技大会)の参観は行ったが、授業参観は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点により中止となった。保護者懇談会は参加者も少なく、ほぼ60%に近い数値であった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・PTA総会は、当日に授業参観と学校行事(陸上競技大会)を行い、出席率40%以上を目指す。 |
| | 安心して活動できる学校を維持するための防災教育や環境教育を充実させます。 | C | シェイクアウト訓練、防災避難訓練(1回は予告なし)を年に2回ずつ実施したが、新型コロナウイルス感染症の影響で、学年ごとの避難訓練であった。防災マニュアルの見直しを行った。 心肺蘇生法実技講習会を実施した。 クリーンえひめの一環として、学校周辺の美化活動を1年生が行った。 | <ul style="list-style-type: none"> ・水害や地震等に備え、防災倉庫の物品管理や学校防災体制の見直し等を引き続き行う。 ・新型コロナウイルス感染症の状況を考慮しながら、一斉避難訓練の実施を検討する。 ・美化委員を通じての防災・環境に関する啓発を考える。 | |

※ 評価は5段階(A : 十分な成果があった B : かなりの成果があった C : 一応の成果があった D : あまり成果がなかった E : 成果がなかった)とする。

| 領域 | 評価項目 | 具体的目標 | 評価 | 目標の達成状況 | 次年度の改善方針 |
|--------------|--------------------------------------|--|----|--|---|
| 高い知性と豊かな創造性 | 学ぶ意欲を高揚させる 教科指導の充実 (授業改善への取組み) | I C Tの活用などにより、主体的・対話的で深い学びを積極的に取り入れ、授業満足度100%を目指します。(「授業に関する生徒評価」4.8ポイント以上) A : 4.8p.以上 B : 4.7~4.6p. C : 4.5~4.4p. D : 4.3~4.2p. E : 4.2p.未滿 | A | 授業に関する生徒評価は、全体平均4.8ポイントと目標を達成できた。 また、各教科・科目でI C T機器を利用した授業が年間を通して積極的に実施できている。令和4年度入学生から年次進行で評価規準を作成し、生徒・保護者に配信を行い、指導と評価の一体化に努めている。 | ・I C T機器の活用については、「活用＝教育効果の向上」ではない面もある。教科・科目の特性を考慮した効果的な活用方法の研究が必要である。校内のWifi環境が脆弱であるので、全クラス同時に実施できないのが課題であり、事務とも相談して来年度以降に改善していく。 |
| | 自ら学び自ら考える力を育てる 家庭学習の充実 | 確かな学力の定着を図るために、課題の与え方を工夫し、家庭学習1日平均4時間以上を目指します。 | B | 家庭学習時間は、3年生が通年5.3時間、1・2年生は考査発表中が4.3時間、平常時が2.8時間であり、1・2年生の平常時の家庭学習時間に減少が見られた。 | ・課題の達成のみに終始することのない家庭学習の習慣化について研究する。 |
| | 読書活動の推進と 思索する態度の育成 | 年間1回以上のクラス読書会、2回以上の全校読書会、全学年による朝読書を実施します。 改訂した「螢雪ライブラリー」を活用して読書指導の充実を図るとともに、読書レポートや読書感想文などの実施を通して、より高いレベルで読書し思索する態度を育てます。 | B | 朝読書は、各学年団の指導及び図書委員会の取組により概ね良好であった。校内読書会はA L Tの協力も得て、高いレベルで読書し思索することができた。新しい「螢雪ライブラリー」を活用できるよう、図書購入を進め、蔵書の充実を図った。図書館管理システムの導入により、生徒が利用しやすい環境整備に努めた。 | ・蔵書の充実がなされていることを生徒に周知し、図書館利用者数や貸出冊数の増加を目指す。 ・放課後の利用のみでなく、教科や総合的な探究の時間でも図書館の効果的な利用ができるよう工夫をしていく。 |
| 強い意志とたくましい体力 | 特別活動の充実と連帯感の醸成 | 学校行事を精選し特別活動をより充実したものに、たくましい心と体を育てます。 ボランティア活動への参加を促し、「共生」の心を育てます。 | A | 本年度も運動会を縮小し実施したが、制限がある中でも生徒は充実した活動ができていた。愛媛マラソンのボランティアに1・2年生270名が参加し、支える立場を経験することで、共生の心が育まれた。 | ・愛媛マラソンのボランティアだけでなく、他の活動にも積極的に参加し、物事の見方や視野を広げていける環境づくりに努める。 |
| | 部活動の充実と心身の健やかな成長 | レベルの高い学習と部活動の両立を目指し、生き生きとした学校生活が送れる環境づくりに努めます。(部活動加入率100%) A : 90%以上 B : 89~80% C : 79~70% D : 69~60% E : 60%未滿 | B | 加入率は90%を超えた。新型コロナウイルス感染症の影響で時間短縮での活動を迫られたが、限られた環境の中でも、各々が工夫し、充実した活動を行うことができた。 | ・コロナ禍で工夫してきたことを、いろいろな規制が緩和されても継続して生かしていけるように努める。 |
| | | 「部活動の在り方に関する方針」に基づいて、適切な活動を行います。 | B | 学習と部活動の両立を目指し、バランスよく活動に取り組む生徒が多かった。 | ・引き続き学習とのバランスを重視し、限られた環境の中で、成果を上げていく。 |
| | 人権・同和教育の充実と豊かな心の育成 | 人権尊重の意識を高め、差別解消への実践力を高めます。 | B | 生徒・教職員とも対外的な学びや研修の機会を確保できた。実施できたものには一定の効果があった。 | ・コロナ禍で実施できていない保護者の参加を伴った学習の機会を積極的に設けていく。 |

| 領域 | 評価項目 | 具体的目標 | 評価 | 目標の達成状況 | 次年度の改善方針 |
|------|-----------------|--|----|---|---|
| 夢の実現 | 進学指導の充実と進路意識の醸成 | 生徒全員の自己実現・進路実現を目指します。 (国公立大学合格率70%以上) A : 70%以上 B : 69~65% C : 64~60% D : 59~55% E : 55%未満 (国公立難関大学+医合格30名以上) A : 30人以上 B : 29~25人 C : 24~20人 D : 19~15人 E : 15人未満 | C | 総合型選抜・学校推薦型選抜では昨年度は5/12(合格者数/受験者数)、25/51であった結果が、本年度は7/22、25/51と合格率が上昇した。在籍者が昨年度より40名あまり少ないこともあり、国公立大学一般選抜出願数は昨年より減少している。一般選抜は、現役168名、過年度卒7名、計175名が合格した。難関大学と医学部医学科は現役、過年度卒合わせて22名が合格した。 | ・螢雪大学や出張講義、主要大学説明会等の進路関係の行事を通して高い目標を持って学ぶ意義を伝えていく。また、早い時期から学年団と協力し、同じ大学を目指して切磋琢磨できるグループの育成を図る。多様化する入試形式や生徒のニーズに応えられるように更なる情報収集に努め、担任会等を通して情報を学年団と共有し、生徒との面談や教科指導に活用してもらう。 |
| | | 高大連携を深め、視野を広げ、学びへのモチベーションを高めます。 | B | 2年生ZESTでは、大学と連携して課題研究に取り組み、大学の先生から直接指導・助言が得られた。活動に「学びがあった」「興味・関心が持てた」の項目の生徒解答の平均値は4.5ポイントと高水準であった。自己評価平均値は4.0ポイントだった。 | ・ZESTでは、探究活動が余裕を持って実施できるよう、日程を工夫する。各種大学オンライン講義とZESTでの探究が有機的に結びつくような体制づくりを図る。 |
| | | 「西高に入学してよかった」と思う生徒の育成を目指します。(「学校評価(生徒評価)」4.5ポイント以上) A : 4.5p.以上 B : 4.4~4.0p. C : 3.9~3.5p. D : 3.4~3.0p. E : 3.0p.未満 | B | 生徒評価は4.4ポイントで、昨年度と変わらない。2・3年生は昨年より評価が上昇している。また、「生徒の実態に応じた進路相談が行われている」の評価が学年が上がるにつれ高くなっており、担任の面談や教科の個別指導等が適切になされたと考える。 | ・進路に関しては、多様な生徒の志望に応えるため、教職員が協力して指導できる体制を整える。1年生と保護者の「進路室の利用方法、進路情報の収集方法の周知」に関する評価が低いため、進路に関するホームルーム活動や保護者対象の進路説明会等を活用し、情報提供をしていく。 |
| 安全管理 | 開かれた学校づくり | ホームページに毎日の生徒の活動や連絡事項を掲載するなどして情報発信に努めます。 | B | 必要な情報を、的確なタイミングで掲載することができた。生徒の日々の活動に関しては、掲載できなかったものもある。 | ・内容や更新頻度については随時適正化を図っていきたい。また、ホームページのデザインについても必要に応じて見直していく。 |
| | 安全管理 | 情報の適切な保管・管理に努め、事務処理の適正化を徹底します。 | B | 課・教科に応じてフォルダを分けるなど、適切に情報を管理できているが、校務の内容の変化に応じて、実態にそぐわない管理方法も出てきている。 | ・業務の実態に応じた管理方法になるよう改善を図るとともに、より効率的な方法についても検討を進めていく。 |
| | | 施設・設備の安全点検、改修を徹底し、事故の防止に努めます。 | B | 安全点検を4月、8月、1月に行い、さらに保健環境課員による校内点検を学期に2回ずつ実施した。補修箇所については、事務課と協力して対応可能な所は迅速に補修した。 | ・老朽化に伴う補修箇所がいろいろあるが、引き続き事務課と協力して随時対応していく。 |
| 業務改善 | 働き方改革の推進 | 業務の効率化・平準化を図り、勤務時間の適正化によってワーク・ライフ・バランスの取組を推進します。 | C | 適宜、年次有給休暇を取りやすい環境を整え、休暇の取得率を向上することに貢献している。年度当初の校務分掌の適切な配置により、過度の勤務が集中しないように配慮できた。 | ・いっそうの休暇取得と、ワークライフバランスの向上を職員に啓発し、更なる勤務時間の適正化を図る。 |
| | 職場環境の整備 | 毎月の衛生委員会の実施や職場の整理整頓等により、教職員の心身の健康の保持増進に関する啓発を行います。 | B | 適切な時期に衛生委員会を開き、新型コロナウイルス感染症の状況を把握し、情報を共有した。休憩室を整理するなど、職場の環境の向上にも努めることができた。 | ・新型コロナウイルス感染症のV類引き下げなど、新しい状況に対する環境づくりと、職員がストレスを溜めることなく、十分な休養を取れるような雰囲気醸成していく。 |